

浅海増殖試験 海藻調査

石田健次

岩礁に大きな群落を形成する海藻は、幼稚魚介類の発育の場および餌料の場となるなど、きわめて有用である。この海藻群落に基づく漁業生産を安定的に維持するためには、これら群落の生物生産機構を推定して群落の造成や維持管理技術を確立する必要がある。

本年度から、多年生海藻群落の維持、保全を図るなどの基礎資料とするために、生活史の解明に関する調査を実施する。本年度はクロメの年齢形質になるとされる茎状部の成長輪について検討した。

方 法

用いた材料は、3月に八束郡鹿島町の沿岸から搔剥具で採集したクロメ標本である。採集した38個体(茎長51~320mm)は、実験室で茎状部の上、中および下部で厚さ約1mmの横断切片を作製し、透視して調べた¹⁾。

結 果

茎状部横断面の生長輪は、当才の小型個体から多年生の大型個体までの茎状部横断面を観察したが、どの部位でも細胞の大きさに明瞭な違いが観察されず、生長輪は計数できなかった。

考 察

宮崎県川南地先のクロメは茎状部横断面の年輪数から年齢を査定しているが²⁾、鹿島町沿岸のクロメでは茎内部に生長輪が観察されなかった。このように、茎内部に生長輪が観察されない海域があることは生育環境の違いにより周期的に茎内部に小細胞が形成されないためと思われる。

参 考 文 献

- 1) 林田文郎 (1977) : 海中林構成種カジメの年齢と生長について. 日水誌, 43, 1043-1051.
- 2) 成原淳一・大木雅彦 (1990) : 宮崎県川南地先のクロメ群落について. 栽培技研, 19, 1-8.